

男は、ラクダとともに砂漠を旅していた。
ある夜、テントで野宿をしていると、ラクダが
言った。

「寒いので、鼻先だけでも入れて欲しい」と。

旅を共にしている大事なラクダの言うことだ。そ
こで、男はラクダの願いを叶えようと、鼻先をテ
ントに入れることを許した。

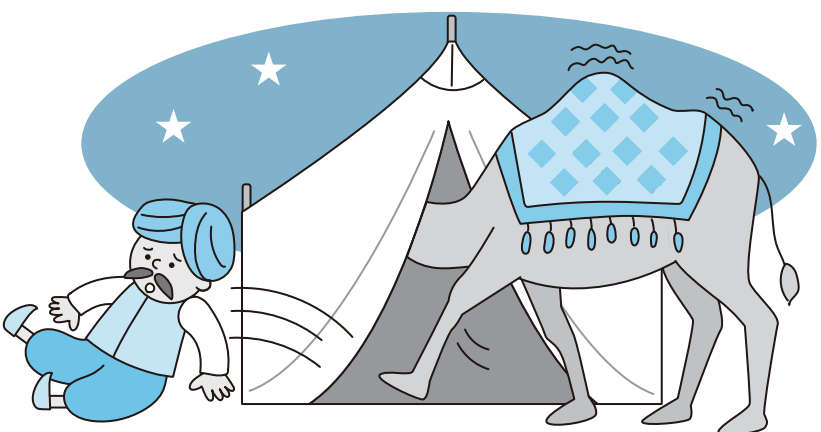
するとラクダは

「首も寒いので、首も入れさせて欲しい」と言っ
て、首もテントに入れてきた。

首まで入るとラクダは男に言った。

「首が入るなら、肩も入るのではないかと」。

そういうながら、ラクダは肩まですっぽりとテン
トに入ってしまった……



気づけば男はテントの外へと追い出されていた！

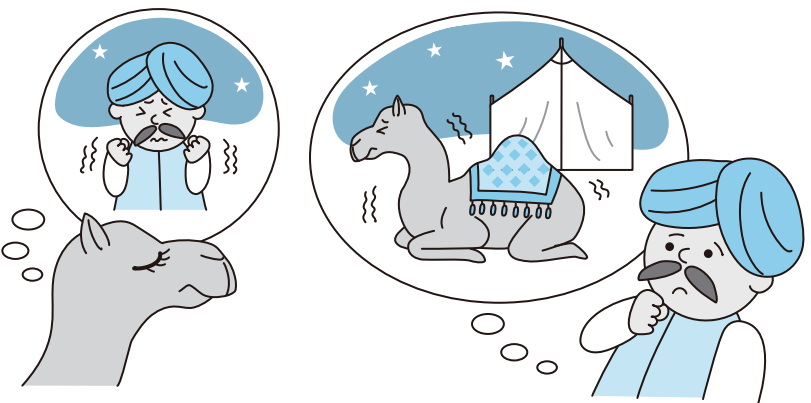
凍えるようなテントの外へと追い出された男は、
テントでぬくぬくと体をあたためるラクダの姿を
見て「寒いから出ていけ」とは言えずに、そのま
ま外で眠ることにした。

テントの外で仰向けに寝転んで、男は気づいた。
自分がテントでぬくぬくと眠っている間、ラクダ
はこんな寒空の下で眠っていたのか、と。

そして空を見上ると、凍れる月と無数の星がきら
めいて、男を照らしていた。

一方、体がすっぽりとテントに入ったラクダも
思っていた。

「テントの中は温かいけれど、砂漠の夜は寒い。
ご主人は凍えていないだろうか？」と。



ラクダに追い出された男



仏のたより B メール ④

男はテントの外からラクダに向かって呟いた。
「昼間は酷暑の中を働いて、夜は寒空の下で眠らせていたなんて、今まで気づかずに済まなかった。これからは、ゆっくりとテントの中で眠っておくれ」と。男の声に気づいたラクダは、男を自分の背中の上で寝かせた。

漆黒の空には、無数の星と月。
一頭と一人の眠るテントを照らしていた。

はなしあってみよう

- 相手を思いやる気持ちってなんだろう？
- 最近、何かに気づきましたか？
- あなたは周りの人にどう思われているでしょう？

テレホン法話 ころの電話



☎ さあよい おはなし
075 341-0874

一度お聞きください。ころにふれる電話を24時間いつでも送りつけます。あなたへの3分!! 電話通話料 (約10円)

浄土真宗本願寺派 (西本願寺) 京都教区

2026年春 発行